

# 花ちゃん、オー君、モンク博士のわくわくドキドキ冒険記3

国立市立国立第七小学校

平成28年2月22日 NO.93 (293)



花ちゃん 「あ！これは、カナブンの<sup>しゃしん</sup>写真だわ。」

オー君 「カナブン？・・・ちょっとちがうんだよな。カナブンとよくにているけど、まあ、<sup>おな なかま</sup>同じ仲間だけどね。」

花ちゃん 「あ！わかった。アオカナブんだ。」

オー君 「うーん。おいしいな。<sup>すかん</sup>図鑑などで<sup>しら</sup>調べると、そのとなりに<sup>むし</sup>のっている虫だよ。カナブンやアオカナブンは木の<sup>き</sup>樹液に<sup>じゆえき</sup>集まる<sup>あつ</sup>だろう。<sup>しゃしん</sup>写真をよく<sup>み</sup>見てごらん。<sup>じゆえき</sup>樹液ではなくて、<sup>なに</sup>何に<sup>き</sup>来ているかな。」

花ちゃん 「お花<sup>はな</sup>に<sup>き</sup>来ているわ。」

オー君 「そうだろう。この虫<sup>むし</sup>はね、コアオハナムグリというんだよ。花<sup>はな</sup>にもぐるようにしているだろう。だから、<sup>なまえ</sup>こういう名前<sup>なまえ</sup>がついたんだ。」

モンタ博士「そうだね。そのとおりだね。ところで、きのうは、花の色と虫についてのお話  
だったけど、この虫たち・・・いわゆるコガネムシの仲間はね、白い花がす  
きなんだよ。」

花ちゃん「そうね、このお花はセンニンソウというお花ですね。」

モンタ博士「さすが、花ちゃんはよく知っているね。あのね、コガネムシやカミキリムシ  
などは、夏になるとよく見られる虫だね。夏は森や林がこい緑色になって、  
白い花がよく自立つようになるのさ。」

オー君「コガネムシなどは、ハチやアブとちがって、あまり飛ぶのが上手な虫とはい  
えないですね。それに、花にとまる時だって、ドッスンという感じで落ち  
てきて、ノッシノッシと歩きまわるんだよね。それと、白い花と何か関係あ  
るのですか。」

モンタ博士「白い花はね、平たくさいている場合が多いんだ。それに、白い花は、小さな花  
を平らにならべたようなので、コガネムシたちが動きやすいようになっ  
てるんだよ。」

花ちゃん「コガネムシたちは、花の蜜をすいにくるのですか。」

モンタ博士「花というと、すぐに蜜があるとかないとか考えてしまうけどね、このコガネ  
ムシたちは、あまい蜜には、見向きもせずに、花粉だけを食べるのさ。」

花ちゃん「そうか、白い花には蜜がないことが多いのは、蜜がべたついて、花粉が食べ  
にくくならないようにするためなのですね。」

モンタ博士「そうだね。そして、白い花は、あまい蜜のにおいをただよわせることもしな  
いんだ。それに、変わった形やおもしろい形で美しさを表現するのでは  
なく、シンプルに飾り気なしにさいているものが多いんだよ。」

## 花の色と昆虫との関係

きのうの黄色の花はアブタイプ、そして今日の白い花はコガネムシタイプと記しましたが、全てが  
これにあてはまるものではありません。あくまでも数多くある植物の花と昆虫の好みを傾向的に見  
たものです。例外もかなりたくさんありますが、大切なことは、花の色と昆虫との間に何か契約めい  
た規則性がないかと考えてみたわけです。このように見方や考え方を広げるのも楽しいものです。